

大腸検査センターだより



注腸造影検査について

注腸造影検査とは、大腸にバリウムを注入してX線撮影を行う検査のことをいいます。

検査を受けましょう!



注腸造影検査でわかる病気

- 大腸ポリープ
- 大腸憩室
- 大腸炎
- 大腸がん など



S状結腸ポリープ

こんな方におすすめします

- 70歳以上の方
- 検査を短時間で終わらせたい方
- 過去の内視鏡検査で異常がなかった方

検査の流れ

1

自宅で下剤を飲んでいただきます。



2

受付



予約された日時にお越しください。

3

レントゲン検査



おしりからバリウムを入れて、大腸全体を観察します。

4

結果説明



大腸状態についてご説明します。

大腸内視鏡検査とはどう違うの？

大腸内視鏡検査 (カメラ)

- 1日がかりの検査です。
- 洗腸剤 (下剤) を飲みます。
- カメラをおしりから挿入し観察します。
- ポリープがあればその場で切除できます。

注腸造影検査 (レントゲン)

- 検査は半日で終わり、体への負担も少ない。
- バリウムと適度な空気を肛門から注入します。
- カメラの挿入困難な方も受けられます。
- 検査前の洗腸剤 (下剤) は不要です。

大腸内視鏡、注腸造影検査ともに精密検査です。

早期発見・早期治療のために定期的に大腸検査を受けることをおすすめいたします。



平成27年度の家田病院での検査状況です。

注腸造影検査の総数

1,628件でした。

検便検査・便潜血陽性で再検査を受けた人のうち、ポリープがあった人は約40%です。